

# 公益信託 農林中金 80周年森林再生基金 平成22年度審査概要

平成23年5月16日

公益信託 農林中金80周年森林再生基金では、平成23年度の募集を5月16日(月)から7月15日(金)までの2ヶ月間行います。どうぞ奮ってご応募下さい。

応募の際の参考に、平成22年度審査概要(応募状況、全体講評、選定された団体の事業概要、審査上のポイント)をご案内いたします。

## 記

### 1. 平成22年度の応募状況と選定結果

応募総数は24件で、そのうち6件(合計約116百万円)が選定されました。今回で2例目となるNPO法人の選定に加え、事業協同組合が初めて1団体選定されました。

### 2. 全体講評

応募のあった24件の内訳は、森林組合17件、森林組合連合会2件、NPO法人4件、事業協同組合1件でした。

事業内容は、施業集約化事業が中心でしたが、古いシステムを改め近代的な技術を生かした事業展開を試みる取組みや台風に強い森づくりを目指す取組みなど、新しい林業を目指す意欲的な申請も見られました。また今回の特徴は、ソフト事業単独の申請が多かった点です。境界を知っている方が存在する今のうちに、境界明確化や森林情報の管理等のシステムを構築したいとする申請者の強いニーズが感じられました。

残念な点は、今年度も募集要項に明記されている応募要件を満たしていない申請がいくつかあったことです。これらの応募案件は、要件不備で選考から除外せざるを得なくなりますので、募集要項、Q&A、申請書記入要領等を確認のうえ、ご応募いただきたくお願い申し上げます。

また、過去の実績等から見て単年度で実施できる事業量として疑問の残る計画や、申請者の事業実施能力、技術等から見て、今後の事業の継続性が困難と見られる案件もいくつかありました。計画策定に当たっては、自身の事業実行体制を冷静に見極め、単年度で実現可能な計画になっているかどうか、また、補助金を積極的に活用するなど、今後基金がなくても事業の継続が可能かどうかを十分に検証して計画を立てられるようご留意願います。

その中で今回採択された6件を見ますと、着実に事業を実施しようとする、地に足の着いた取組みであること、取組目的が明確になっていることなどが共通的な特徴です。

また、これらの事業は、それぞれの地域特性を踏まえた上で、効率性、採算性、コスト削減に留意し、森林・林業再生を意欲的に行おうとしている点も共通的な特徴となっております。

### 3. 選定された6団体の事業概要

#### (1) 北信州森林組合（長野県）

##### ① 事業名

「デジタル森林管理～森林経営の再生を目指して」

##### ② 事業概要

事業地は、リゾート開発撤退後の整備が放棄されたエリアを含み、林業経営意欲の低下と境界不明確により、これまで森林整備が放棄されてきた場所である。

当事業では、3市町村、3団地、約400ヘクタール弱の事業エリアを設置し、山林所有者との長期施業受託の締結、境界明確化、資源調査を行い、森林GIS上にその情報を蓄積しデジタル管理をしようとするものである。事業目的が明確である点や、これらの情報を次年度のハード事業につなげる計画が具体的である点が評価された。

#### (2) 特定非営利活動法人 柚の杜 学舎（岐阜県）

##### ① 事業名

「美濃市ふくべの森入会林野再生モデル事業」

##### ② 事業概要

事業地は集落の最源流域にあり、官行造林契約による皆伐予定地であったところを、皆伐による災害発生を懸念した地元住民が購入した地域である。

当事業では、手遅れ林分となっている森林を、当法人が指導的役割を努め適切な施業計画に基づいて指針とモデルを作成し、地域住民による共有林管理体制の再構築を図ることを目指している。問題点、課題点をよく把握しており、また、NPO法人の特長を生かして入会林野再生を行なうことは、社会的にも意義があると認められる点が評価された。

#### (3) 中勢森林組合（三重県）

##### ① 事業名

「森林ゾーニングによる多様で健全な森林づくり事業」

##### ② 事業概要

事業地は、県内でも珍しい尾根から谷への帯状の形をしており、多数の所

有者が縦割りに小面積を所有している。植栽時期も同じことから、境界の明確化が非常に難しい上に莫大な費用がかかるため、森林整備が放棄されてきた地域である。

当事業では、エリア内をオオサンショウウオ等の貴重動物の保全にも配慮したゾーニングにより区分し、エリア内の所有者の確定や境界を明確化するとともに、地形および目的に沿って施業を実施しようとするものである。人工林については、路網整備、高性能林業機械による低コスト化に努め、C材搬出を含めた各段階のコスト検証を行なう取組みであり、これらの点が評価された。

#### (4) 吉野林業協同組合（奈良県）

##### ① 事業名

「川上村下多古峰の平 作業道作成工事及び周辺間伐事業」

##### ② 事業概要

事業地は、密植・多間伐・長伐期で優良材を生産しており、材価がよいため、これまでヘリコプター集材を行ってきた地域である。しかし材価の低迷から、ヘリコプター集材では出材できなくなっている。急峻な地形ともあいまって路網整備が大きく遅れている地域である。

当事業は、材の搬出を可能とすべく、「壊れない作業道づくり」の技術を吉野地域の林業家で共有することを図るとともに、路網整備を共同で行なうことで、コスト高となるヘリ集材からの脱却を図ろうとする取組みである。古いシステムを改め、新しい地域林業を展開しようとする試みが評価された。

#### (5) 熊本県森林組合連合会（熊本県）

##### ① 事業名

「熊本市西部域民有林の森林境界明確化と荒廃森林の保全対策」

##### ② 事業概要

事業地は、森林組合が解散し、民有林に対する森林整備等の働きかけが全く行なわれておらず、補助制度の活用も行なわれなかったこと、また、森林所有面積も大半が0.3ヘクタール以下ときわめて零細であることから、手入れ不足による荒廃森林の割合が高くなっている。

当事業では、連合会自身が集約化を行い、境界の明確化、作業道の整備、利用間伐等の集約化施業を実践し、当地区の森林整備を推進することに加え、連合会として本来果たすべき森林組合への指導機能の強化を図ろうとする取組みが評価された。

(6) 曾於地区森林組合（鹿児島県）

① 事業名

「ふるさとの森再生事業～台風被害からの復活～」

③ 事業概要

当地区は、志布志湾沿いに位置する台風被害を受けやすい地域である。いまだに平成 5 年の激甚な台風被害を受けた後遺症が残り、本事業地の林分では台風によるキズなどで一般用材の割合が低く、材価が安いことなどから、森林所有者の森林離れが進み、荒廃林分が増加している。

当事業では、私有林と公有林とを一体的に集約化し、私有林は森林現況に対応した施業方法を検討した上で、人工林については、路網整備を行い、高性能林業機械を活用した効率的な施業を行い、森林所有者の意識を高め、台風にも強いふるさとの森の再生を図ろうとする取組みが評価された。

4. 審査のポイント

事業の中でも、次のような緊急性、波及性、新規性が高い事業・活動を選定しますので参考にしてください。

- (1) 山づくりの長期的ビジョンが描かれ、それに基づいて申請事業の位置づけが明確な事業
- (2) 施業対象となる森林の整備が危急と認められる事業
- (3) ノウハウ・技術・生産性の向上、コスト削減等により、助成金終了後も事業の継続性、波及性が認められる事業
- (4) 協同組合・地元住民・ボランティア・行政等と連携した活動
- (5) 過去に例のない先進的事業（不在村者の森林経営信託等）

以 上